

## シンポジウム「アジアの家族と親密性ーアジア家族研究の共通基盤形成」

- 「家族イデオロギーと国家」 タネート・ワンヤンナワー (タマサート大学)  
コメント 林研三 (札幌大学)
- 「家父長制と父系制」 殷棋洙 (ソウル国立大学)  
コメント 米村千代 (千葉大学)
- 「性愛」 パトリシア・ウベロイ (開発途上社会研究センター)  
コメント 八木透 (佛教大学)
- 「結婚と離婚」 ゲエン・フウ・ミン (ベトナム社会科学院)  
コメント 浜野潔 (関西大学)
- 「ケア・レジーム」 落合恵美子 (京都大学)  
コメント 田淵六郎 (上智大学)
- 「ジェンダー」 キャロライン・ソブリチア (フィリピン大学)  
コメント 三成美保 (奈良女子大学)
- 「フィリピン」 長坂格 (広島大学)
- 「中国」 候楊方 (復旦大学)  
コメント 藤井勝 (神戸大学)  
(山内昌和記)

## アメリカ人口学会2012年大会

アメリカ人口学会 (Population Association of America) の2012年大会が5月3日～5日の日程でカリフォルニア州サンフランシスコにて開催された。今次大会は2,100人以上が参加し、また、報告者数が多かったことから、最終日の夕方までセッションが追加されるほどの盛況であった。

ペーパーセッションは合計で216あり、分野ごとには、「出生・家族計画・性行動・リプロダクティブヘルス」(42)、「結婚・家族・世帯・連帯」(32)、「子ども・若者」(21)、「健康・死亡」(40)、「人種・エスニシティ・ジェンダー」(10)、「移民・都市化」(23)、「経済・労働力・教育・格差」(15)、「人口・開発・環境」(10)、「人口・高齢化」(8)、「データ・方法論」(8)、「応用人口学」(7)となっていた。日本ではあまり多くない健康・死亡のセッションも全体の約2割を占めており、健康・死亡研究の現状がわが国とは大きく異なっているのが印象的である。また、ポスターセッションは7セッション設けられていた。

当研究所からは、金子隆一副所長、岩澤美帆人口動向研究部室長、暮石渉社会保障基礎理論研究部室長、是川夕人口動向研究部研究員と筆者の5名が参加した。このうち、金子副所長がポスターセッションにて“Fertility Trends and Processes in Japan: Re-Examination of Marital Fertility”，岩澤室長がセッション“Fertility Research in a Comparative Perspectives”にて“Educational Differences in Fertility Intentions: A U.S.-Japan Comparison”，暮石室長がポスターセッションにて“Precautionary Savings and Single Women in Japan”，筆者がポスターセッションにて“Application of Tangent Vector Fields on the Log Mortality Surface to Mortality Projection for Japan”との報告を行った。

年次大会の開催期間中には、これらの通常のセッション以外にも特別なセッションがいくつか開催されるが、筆者らは国連人口部の2010年推計に関するセッションに参加した。ここでは、2010年推計で使われた確率推計に関連したプレゼンテーションや討議が行われ、大変興味深いものであった。

(石井 太記)